

1 単元名 「きょう土を開く（東京書籍 新しい社会4 P114～131）」

2 単元の目標

- 当時の世の中の課題や人々の願いなどについて、見学・調査したり地図などの資料を調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を理解することができる。
(知識及び技能)
- 当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、問いを見出し、地域の発展に尽くした先人の具体的事例について考え表現することができる。
(思考力・判断力・表現力等)
- 県内の先人の働きについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追求し、解決しようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、「谷に囲まれた台地に水を引く」を教材として取り上げる。

熊本県山都町にある通潤橋や資料館を見学することを通して、実物を見る体験から学習への意欲を高めることができる。また、現地のボランティアガイドの方に話を聞く活動を通して、当時の生活の様子や願い、どのように開発が行われてきたのかに着目し、生活を改善するために尽くした先人について学ぶことができる。

また、熊本地震での被害が出たことや修復、復興のために支援を募ったことを取り上げる。このことを通して、地震被害や復興に対する確かな知識を得ようとするとともに、得た知識を新聞などに表す活動で発信したり、今後の生活で生かすことのできる取り組みを考えたりすることができるよさがある。

(2) 児童観

本学級の児童は、菊池市にある浄水センターや竜門ダムを見学する活動をしてきている。活動を通して、水を地域の生活に生かすために浄水センターやダムが作られたことを学んでいる。

また、新聞に表す活動を通して、学んだことを校内に発信する活動を行っている。見学する活動に対して、高い意欲を持っている。

さらに、社会的な事象や身の回りの実態などから課題を見つけたり、友だちとの対話を通して考えを練り上げて予想を立てながら活動に取り組んだりすることができるようになった。この期に本課題を取り上げる意義は大きい。

(3) 指導観

本単元の導入に当たっては、まず、通潤橋の写真を提示する。このことを通して、通潤橋は昔造られた石橋であり、今も残っていることに気付かせる。その資料をもとに、なぜ今も残っているのかを話し合わせることを通して、通潤橋が残っていることに対する課題をつかませたい。また、これまで学んできた浄水センターや竜門ダムについて想起させ、見学して学ぶことへの意欲を持たせたい。

次に、見学旅行を通して、通潤橋や通潤橋資料館を見学し、歴史背景や先人たちの働きを学ばせる。また、橋上見学やバスによる周囲の散策により、地域の実態をつかませるとともに、学びを新聞作成で発信していきたいという思いを持たせたい。なお、新聞を作成する際には、校内掲示をすることを伝え、相手にとって見やすいものであるという視覚的な配慮をするように伝える。また、写真やイラスト、クイズなど、デザインの工夫についても考えさせるようにする。

そして、ボランティアガイドの方の話を通して、熊本地震の被害を想起させるとともに、修復や復興に携わる人々の願いに触れることができるようにする。その上で、「これからも通潤橋は残っていくのか」という課題について考える活動を通して、未来に向けて自分たちにできることをまとめる機会とする。

さらには、通潤橋以外に熊本県や菊池市に残っている史跡（設備）について調べる活動を通して、どの史跡（設備）にも共通して、生活をよりよくしたいという人々の願いが込められていることやこれからも残していくために努力している人々がいることにつなげていくようにする。

(4) ESDとの関連

・ 本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

多様性…人々が工夫、努力することで様々な場所で暮らすことができるということ。

相互性…通潤橋を通して、孤立していた白糸台地に水のつながりをもたせたこと。

責任性…残し続けていくには、そこに住む自分たちの行動が大切であること。

・ 本学習を通して育てたいESDの資質・能力

○批判的に考える力（クリティカル・シンキング）

通潤橋は残ってきたのではなく、多くの人たちの努力と工夫によって残されてきたことに気付く。

○コミュニケーションを行う力

通潤橋がなぜ残ってきたのか、また残っていくためにはどんなことが必要なのか、根拠を明らかにして話し合う。

○つながりを尊重する態度

水を大切にすることは、地球規模の課題と密接に関わっているので、自分たちが変えていかなければならない。

○進んで参加する態度

これからの自分の通潤橋への見方や史跡を守る行動の仕方を考える。

・ 本学習で変容を期待するESDの価値観

○世代間の公正

人々のよりよい生活を願ってつくられ、残されてきた通潤橋をこれからも残していかなければならない。

○人権・文化を尊重する（文化多様性の尊重）

重要文化財や世界灌漑施設遺産に登録されている通潤橋を大切にする意識を持つ。

幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

いつの時代も、だれもがよりよい生活を送りたいという願いを持って、「豊かな暮らし」を追い求めている。

・ 達成が期待されるSDGs

- 2 飢餓の解消
- 6 水と衛生
- 9 インフラ
- 11 まちづくり
- 12 生産と消費
- 13 気候変動

4 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>①当時の世の中の課題や人々の願いなどについて、見学・調査したり、地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を理解している。</p> <p>②調べたことを年表や文などにまとめ、地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解している。</p>	<p>①当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、問いを見出し、地域の発展に尽くした先人の具体的事例について考え表現している。</p> <p>②先人の働きと地域の発展や人々の生活の向上を関連付けて考え、適切に表現している。</p>	<p>①県内の先人の働きについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p>

5 単元の指導計画（全12時間）

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>1 通潤橋の写真を見て、気づいたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真ん中から水がふき出している。 ・橋の上にも人がいる。 ・まわりでたくさんの人が見ている。 <p>2 白糸台地の地形に関する写真を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深い谷に囲まれている。 ・水を確保するために川まで下りるのが大変だ。 	<p>○通潤橋の写真を提示し、気づきをノートに記述させた上で発表する。</p> <p>○地図帳で通潤橋の位置を確かめる。</p> <p>○160年以上前から残されていることを伝え、学習問題につなげる。</p> <p>○白糸台地の人々の願いについて、水の確保の難しさと生活への影響を関連付けて調べるようにする。</p>	<p>ウ① (主体的)</p> <p>イ① (思・判・表)</p>
<p>3 通潤橋がどのように作られたかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川から水を引く工夫が分かった。 ・通水管の工夫が分かった。 ・橋の組み方の工夫を知った。 ・橋作りはくらしをよくしたいという思いから生まれた。 <p>4 通潤橋完成後の白糸台地の様子を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米作りが行いやすくなったと思う。 ・飲み水にも困らなくなり、喜んだ。 ・円形分水でどの地域にも水がいきわたるようになり、幸せになった。 <p>5 通潤橋を残すためにどんなことをしているのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要文化財や世界灌漑施設遺産登録もされている。 ・熊本地震の後、修復や復興が行われたように、残したい思いが強いと思う。 	<p>○見学旅行での通潤橋資料館見学を通して、通潤橋の作られ方を確認する。</p> <p>○人々の思いに注目するようにする。</p> <p>○バスでの散策や円形分水見学を通して、通潤橋完成後の白糸台地の様子を確認する。</p> <p>○人々の思いを想像する。</p> <p>○ボランティアガイドの方の話を聞き、通潤橋を残すための取り組みを確認する。</p> <p>○残すために働きかけている人の思いを想像する。</p>	<p>ア② (知・技)</p> <p>ア① (知・技)</p> <p>ア② (知・技)</p>

<p>6 鮎の瀬大橋や霊台橋と通潤橋を比べ、どのような違いがあるのかを考える。</p> <p>7 調べた内容を新聞にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通潤橋の歴史や残すための取り組みをまとめよう。 ・通潤橋の作られ方や人々の願いをまとめよう。 <p>8 新聞にまとめたことをペアやグループで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々はくらしをよくしたいという願いから通潤橋を作っていた。 ・作られた後も未来に残そうとする人々の願いによって残っている。 <p>9 これからも通潤橋は残っていくのかを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの人々の思いがあるので、残っていくと思う。 ・みんなが思いを大切にしないと残らないと思うので、大切にしたい。 	<p>○見学を通して、それぞれの違いや気づきを確認する。</p> <p>○新聞作成の手立てとして、見学旅行の写真や資料をT e a m sで共有する。また、新聞の例を示す。</p> <p>○人々の願いに注目してまとめるようにする。</p> <p>○作成した新聞をT e a m sで共有し、様々な相手と交流できるようにする。</p> <p>○これまでの調べ学習を通して、自分の意見をノートに整理して発言させる。</p> <p>○名前マグネットを使い、自分の意見を明確にしながらか話し合いを進める。</p> <p>○人々の願いや思いを中心に話し合いをまとめる。</p>	<p>イ② (思・判・表)</p> <p>イ① (思・判・表)</p> <p>イ② (思・判・表)</p> <p>ウ① (主体的)</p>
<p>10 通潤橋の他に熊本県や菊池に残っている史跡(設備)について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・築地井手がある。 ・古川兵戸井手がある。 ・どの史跡も生活をよくしたいという願いがこめられている。 ・他にも残されている史跡がないか調べてみたい。 	<p>○事前に資料やホームページの情報をT e a m sにまとめ、調べ学習の手がかりとする。</p> <p>○作られた史跡(設備)に込められた願いや思いを中心にまとめる。</p>	<p>イ② (思・判・表)</p>

校種	小学校	学年	4年	教科	社会	単元名	きょう土を開く（全12時間）
----	-----	----	----	----	----	-----	----------------

みつめる①

資料を見て気づいたことを発表しよう。

通潤橋の写真

橋から水が出ていて、ふしぎだな。

なぜこんな橋をつくったのだろう。

どこにある橋なのだろう。

石でつくられているけど、今もあるのかな。

通潤橋は160年以上前につくられ、今も残っている！

石の橋がなぜ今も残っているのだろう。

通潤橋は、なぜ160年以上も残っているのだろう？

しらべる②

通潤橋はなぜつくられたのだろう？

白糸台地に水を引く
白糸台地の特徴（地形・くらし）
布田保之助が中心となった
布田保之助の人物像（役職・願い）

通潤橋はどのようにつくられたのだろう？

川から水を引く工夫
通水管の工夫
橋の工夫
橋づくりに協力した人々

昔は米作りが生活する上で重要だった。

布田保之助はみんなの願いをかなえるために行動した。

工夫を重ねて、通潤橋は出来上がっていった。

人々の協力があると願いをかなえられる。

通潤橋完成後の白糸台地はどうなったのだろう？

米作り
飲み水
円形分水

通潤橋を残すためにどんなことをしているのだろう？

観光
重要文化財・世界灌漑施設遺産登録
熊本地震・大雨後の修復

白糸台地でくらす人々は幸せになった。

水の流れを変えて、自然に影響はなかったのかな。

通潤橋を残すために様々な取り組みがされているな。

通潤橋資料館や橋上見学も観光の一つになっている。

ふかめる①

これからも通潤橋は残っていくのだろうか？

重要文化財や世界灌漑施設遺産に登録されているので、残されていくと思う。

大雨や地震などが増えているから、いつか壊れてしまうかもしれない。

続いていくためには、これからも人々の協力が必要になると思う。

環境を守ることや人々の生活をよくしたいという思いのどちらも大切にしなければいけない。

ひろげる③

熊本や菊池に他の残っている史跡（設備）はないだろうか？

築地井手

- ・400年以上前、菊池川からの水を引くためにつくられた。
- ・都市化に伴い、水が汚れ、使われなくなった。
- ・自然を取り込む市の取り組みの中で再び整備された。

生活をよくしたいという人々の願いがこめられているのだなあ。

古川兵戸井手

- ・菊池川の水量を増やすために平山八左衛門によってつくられた。
- ・現在も立門揚水場から水を送り続けている。

熊本（菊池）には昔から残る史跡があるのだなあ。